

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



2016/12/8 大和村
(左から：シラタマカズラ、イイギリ、ムベ、オオムラサキシキブ)

今年は、台風の通過がなかったせいか、さまざまな植物の実のなりがとてもよかったように思います。椎の実は、例年より少な目でしたが（奄美大島では）。

去年全く見れなかったイイギリの赤い実が枝もたわわになっていました。個人的に特に嬉しかったのは、ムベです。こんなにもなるのか！？と驚くくらいあちらこちらで見つけ、食べていました。しかし、この美味しいムベ、島の人たちでも知らない方が多い。もちろん年配の方や普段山に入る方は知っています。しかし、40代以下の世代で知っている方は数少ないと感じました。

こんな美味しい物を知らないなんて損だ！と勝手に感じていた私は、小学生の出前授業の際、子どもたちにすすめてみました。「食べたい人ー。」と声も掛けるもシーン…「えー嫌だ」と顔をゆがめ拒否。しかし、しょんぼりとしていたところ、高学年の一人が気を使って食べてみたいと言ってくれました。おそろおそろ口に入れたら、「甘い！美味しい！」と声をあげ…その後は言わずもがな。嫌だと言っていたのが嘘だったように、奪い合いながら美味しい美味しいと言ってみんなで食べてくれました。

山にばかり海にばかり。美味しいものや楽しいものを見つければ、山・海遊びが断然面白くなり、遊び方も学んでいけると思います。ムベの美味しさをもっと広めなければと思った実りの秋でした。

(吉田)

今の時期に見られる動植物



ホオジロガモ

迷鳥。全国の湖沼や湾内などに冬鳥として渡来するが北日本に多く、奄美へは単独で渡来した記録がある。



ホシムクドリ

数少ない冬鳥として西南日本に渡来する。奄美群島では、旅鳥として農耕地などに渡来するが、稀に越冬する。



サクラツツジ

四国・九州以南に生育。サクラと付くがツツジ科。樹幹は凹凸が激しく、甚だ奇形となる。銘木として、床柱、床縁などに使用される。



イイギリ

本州以南に生育。実は房状になり、橙赤色に熟す。黄色く熟している実を初めて目にした。



真下からのアングル

今季の一枚 「虫こぶ」

葉がボコボコしてなんだか気持ち悪い物…という見方を覆してくれるかもしれない虫こぶがありました。その名も「タブノキハウラウスフシ」。タブウスフシタマバエが寄生することによってできる虫こぶです。タブノキの葉の裏に作られるのですが、つるんとした質感、そしてヒョウタンの様な形。そしてなんとこの虫こぶ、日光に当たるとピンク色になるとのことです。残念ながら写真に収めることは出来ませんでした。個人的には、キモカワイイとはこういうことなのか？と思いました。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は
和泊町
です



和泊町は、南は太平洋、北は東シナ海に面した沖永良部島の東北部に位置し、産業は農業が中心で、近年は観光にも力をいれています。



和泊町の花【テッポウユリ】

明治 32 年から栽培がはじまり、海外へも輸出されています。花言葉は「清純」。その香りは人々の心を和ませます。



和泊町での取り組みをご紹介します



和泊町後蘭（ごらん）集落では、昭和の減反政策により全ての水田を畑地に転換しました。現在、沖永良部島での稲作は、2つの小学校の体験学習でしか行われていないことから、和泊町まちづくり協力隊による「あざ・まち元気活動」ワークショップを行い、かつて沖永良部島最大の水田地帯であった後蘭集落の稲作の復活と、それに纏わる伝統芸能の継承、集落に多数存在する湧水地の整備、地域の誇りである孫八城（まごはちじょう）跡の整備などによる集落活性化を目指して活動しています。

昨年度、水田整備を終え、今年度、植え付けからもち米の収穫まで行いました。また、収穫後は「孫八収穫祭」を開催しました。植え付けから、収穫、脱穀、精米、餅つきの一連の活動に長寿会から育成会までが参加、活動に共感する他集落の方々も参加し、年齢、地域間の協働活動を実現した。また、「後蘭孫八（ごらんまごはち）音頭」という新たな伝統芸能を創りだし、後世に残す取組も行っています。

今後は湧水地、孫八城跡の整備、管理と案内板を設置し観光ツアーを誘致、水田の拡大を計画しています。さらに、地元酒造会社からの依頼を受け、うるち米の生産、販売、コラボレーションしたプレミアム焼酎の発売等、収益事業を通しての集落活性化も計画しています。

<主な事業>

・後蘭孫八の郷元気復活振興事業（米作り、稲作文化に纏わる伝統芸能の創造・普及、湧水地、孫八城跡の整備・観光資源化）

【和泊町役場企画課】





いきもののふしぎ ~ 食べられる植物のお話 ~



健康食品として、最近改めて見直されている野生植物。美味しいのはもちろんですが、さまざまな効能があり、民間療法としても利用されています。



奄美群島で、現在も利用されている代表的な野生植物はなんですか？ ソテツ、ツワブキ、ヨモギ、ゲットウ、ツルグミ。お土産屋さんやスーパーで買えるものはこんな感じでしょうか。(各島で違ってくるとは思いますが、ご了承ください)

ソテツは、奄美群島の人々の命を救った恩人ともいえる植物で、現在では蘇鉄味噌として目にすることが多いですね。ツワブキは豚を使った野菜煮込みなどに、ヨモギは餅に練りこみヨモギモチに。防腐効果のあるゲットウの葉は餅などを包んだり、現在も私たちの生活に馴染みのあるものです。

美味しい果実編



ムベ
果肉の部分が少なく、種が大きいですが、甘味が強く美味しい。9～11月頃になる。



スタジイ (椎の実)
別名イタジイ。米があまり食べられない時代、米と一緒に炊いたり、米の代わりに食べたり、味噌や焼酎なども椎の実で作っていた。現在も、お菓子の中に入れてたりする。アクが少ないため、そのままでも食べられる。10月～12月に実がなる。



オオイタビ
イチジクのような実がなる。



シマサルナシ
キウイフルーツを小さくしたような感じ。そのままでも十分食べられるが、お酒につけたり、ジャムにして食べたりする。酸味があり美味しい。11月～12月頃に実がなる。



野イチゴ類
リュウキュウバライチゴ、リュウキュウイチゴ、ハウロクイチゴの3種が林道沿いなどにたくさん生えるので、よく食べられる。4～5月頃に実がなる。



シマグワ
一番メジャーかつ一番美味しい実(個人談)。ブドウのような味わい。口を紫色にして先生に怒られた、ポケットを果汁で汚した、という話をよく聞く。4月頃に実が生る。



ヤマモモ
酸味・甘味があり美味しい。5月頃に実がなる。実がなるとすぐに鳥がくるので、ヤマモモにありつくには、鳥との戦いになる。



毒をもっている植物はたくさんあります。採取する時は、植物に詳しい人と出かけましょう。また、人の土地などで勝手に採らないようにマナーを守りましょう。

利用される草木

集落によって食べる植物は変わるようです。



ツワブキ
茎を食べる。豚肉と一緒に煮込んだり佃煮などで食べる。郷土料理になくはないもの。



ヨモギ
ヨモギモチとしてよく食べられる。煎じ薬としても利用される。



シマアザミ
茎を食べる。豚肉と一緒に煮込んだり佃煮などで食べる。最近、さまざまな効能があるとして注目されている



セリ
春の七草の一つ。奈良時代から食されているそう。



わらび・ぜんまい
本州などでは、山菜の代表格だが、奄美ではあまり食べられていないそう。とても美味しいので一度ご賞味あれ。



ハハコグサ
春の七草の一つ。煎じてうがい薬としても利用できる。



タラの芽
タラノキの新芽。最近食べられるようになったそう。苦みがあり天ぷらにすると美味しい。



オオタニワタリ
八重山地方ではよく食べられているが、奄美では食べないそう。



ポタンボウフウ
長命草とも呼ばれる。最近食べられはじめ、さまざまな効能があるとして利用されている。天ぷらが美味しい。



アマシバ
名前の通り、葉が甘い。昔、子どもがガム替わりに噛んでいたそう。



クビ木
ツルグミのツルを細かく砕いたもの。昔から、煎じて飲まれ、熱さましや肝臓などに良いとされる。化膿・虫さされにも利用されている。



ゲットウ
防腐効果があり、昔から食べものを包むのに利用されている。クマタケランも同じように利用する。最近、さまざまな効能があるとして、化粧品などにも利用されている。

まとめ

食用や薬などに利用される植物はまだたくさんあります。集落ごとに利用する植物は変わってきますので、他の集落で利用されている植物にも是非目を向けてもらえれば。また、身近に利用できる植物はたくさんありますので、探してみてください。植物の面白さ素晴らしさを改めて感じてもらうと思います。



センター & 協議会 News



お知らせ

あまみワイルドライフセミナー 奄美群島国立公園指定決定記念イベント アマミノクロウサギ特別講演会 in 大和村

日時：平成 29 年 2 月 25 日（土） 14：00～15：30

場所：大和村防災センター（大和村思勝字永良 477-1）

内容：

【講演】浜田太（アマミノクロウサギ生態研究家）
「アマミノクロウサギの生態 フィールドからの報告」

【昔語り】中山昭二（大和村中央公民館館長）
「大和小中学校の飼育記録」

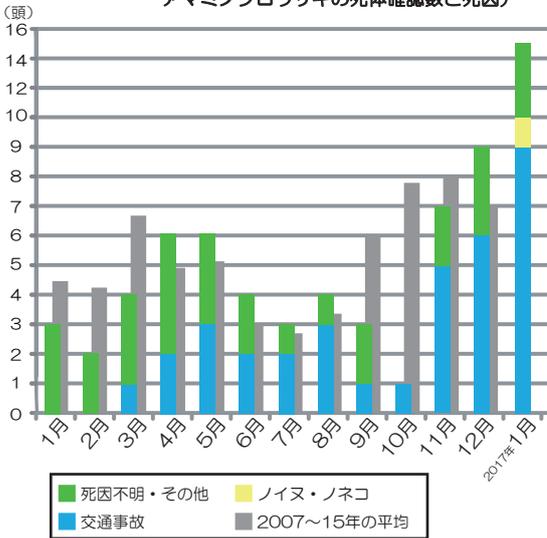
【最新情報】木元侑菜（奄美野生生物保護センターアクティブレンジャー）
「大和村のアマミノクロウサギ最新情報」

貴重な未公開映像とともにアマミノクロウサギの生活や子育てについて紹介していただきます。アマミノクロウサギについてこれほど詳しく解説する講演会はおそらく初めてではないかと思ひます。貴重な講演会となると思ひますので、皆様、ふるってご参加ください。



アマミノクロウサギ死体確認数

(2017年1月末日時点の
アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

安全運転 特に夜間の林道ではゆっくり走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

野生化した犬・ねこは、アマミノクロウサギをはじめとした「奄美の森の宝」を食べてしまうこともあります。

捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう。

避妊・去勢手術

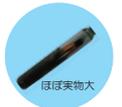
繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることにあります。

マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。

放し飼いをしない

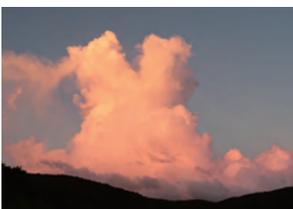
ねこは室内飼育、犬は室内もしくはリードをつけて外で飼いましょう。



犬・ねこに関するお知らせ

ワクチンには、狂犬病ワクチンだけではなく、犬猫をさまざまな病気から守る混合ワクチンというものがあります。犬ねこがかかる病気はさまざまありますが、ワクチンによって防げる場合があります。また、病気になってしまっても軽くすむので、健康に過ごせる可能性を高めることができます。年に1回打つことが推奨されています。

いきものおもしろ写真館



雲

生きものではありませんが、面白い形の雲だったのでご紹介。
きれいなウサギ型の雲が夕暮れ時に現れました。こんなにハッキリとしたウサギの形の雲は初めてみたので感動しました。

編集後記



編集後記ですすでに数回ムベについて話していますが、ついに表紙でもムベの話をしてしまいました…。ムベに始まりムベで終わる。自分的には大満足です。そして、左の写真。命名「ムベカーテン」です。ムベが驚くほどなっています。